

し易い胎児環境の把握のためには、さらに迅速簡便な測定法の登場が望まれていた。今回、反応時間3分という時間的にも手技的にも極めて簡易化したラテックス凝集法(グステフォロー“榮研”)を検討する機会を得たので妊娠後期の症例を中心に報告する。

## 21. 妊娠、産褥期及び新生児期における HDL-Cholesterol の変動

中村 欽哉, 仁藤 章男 (川鉄)  
加藤 徳太郎 (川鉄・検査科)  
工藤 純孝 (千大)

高比重リポ蛋白(HDL)はLpLやLCATの作用調節を介してコレステロールエステルの形成とトリグリセライド輸送の促進, 円滑化の作用を有し, 動脈硬化とは逆相関するといわれる。妊娠時母体は高脂血症の状態にあり特に高血圧型重症中毒症に異常高脂血症が多い。一方胎児の血中脂質ははるかに低値で総脂質は母体の1/3に過ぎず, 脂質分画は異っている。我々は, 妊娠, 産褥期及び新生児期の脂質代謝の変動を主として, HDL-Cholesterolの変動を通じて検討を試み若干の知見を得たので報告する。

## 22. 新生児脳 CT scan に対する考察

新井一夫, 赤嶺正裕 (君津中央)

Computed Tomography が診断にはたす役割は大きく, 小児の頭部 CT においても頭の大きさの異常, 神経皮膚症候群等の診断と, その応用は広い。新生児においては, これら疾患のほかに, 脳出血, 周産期無酸素症等の頭部分娩時障害の診断, 予後判定に有意義と考えられる。新生児期では, 1) 髄液腔の描出が不明瞭であるだけでは, 脳浮腫があると断定できない。2) Falx Density の増強は必ずしも脳出血をものがたらない。

## 23. 母乳栄養における新生児黄疸の統計

赤嶺正裕, 新井一夫, 長谷川正夫 (君津中央)

当院では新生児の哺育は, 全例母乳栄養を原則として行なっている。昭和51年1月よりBILCLIT, BILMETERを用いて全新生児の血清ビリ値を測定し高ビリ血症の児に光線療法あるいはフェノバルビタール療法を行ってきたので, その統計学的考察を行ない, また血清ビリ値を左右する因子としての新生児室温, 採血後測定までの時間, 測定器の信頼性について若干の検討を加え報告する。

## 24. 周産期死亡の剖検

柴田 皓三 (船橋中央)  
大久保春男 (同・病理)

周産期死亡の剖検は, 昭和49年より5年間で42例(38.5%)をかぞえた。これらの死因を検討したところ, 無酸素症は16例(38.1%), 肺機能異常は12例(28.6%)で, 奇形及び分娩障害等は10例あり, 不明は4例(9.5%)であった。無酸素症では, 臍帯, 胎盤の異常による胎児循環障害と, 児の位置異常等による早発呼吸例が多く, 肺機能異常では, 羊水過多症, 妊娠中毒症が多く, 分娩障害例は, 骨盤位であった。これらの病理所見につき詳述する。

## 25. 胎児奇形の出生前診断

—Fetographie を中心に—

仁藤 章夫, 中村 欽哉 (川鉄)

胎児奇形の出生前診断の重要性は論をまたないが, 同時に極めて困難な問題でもある。異常が疑われる妊婦に対して, 古くからX線単純撮影が行われるが, 軟部組織の異常は識別不能であり, 骨格の異常でさえ, 往々にして見落とし勝ちである。

過去, 川鉄病院で出生前診断をし得た奇形児のうち, 水頭症, 脳膜瘤等6例を選び, 胎表造影の写真を供覧すると共に併せて当該例の羊水分析, 胎児胎盤機能検査成績について報告する。

## 26. 妊娠末期に診断し得た Achondrogenesis の1例

赤嶺正裕, 新井一夫 (君津中央)

Achondrogenesis は, 致死性四肢短縮型小人症に属する8疾患のうちの1つで, 常染色体劣性遺伝であり, 本邦報告例は少ない。

我々は, 妊娠32週の腹部X線像にて本症を診断し得た1例を経験した。本症が妊娠中に診断可能である点, 胎児軟骨異栄養症(常染色体優性遺伝)と誤診されている問題点, 次子に対する親への説明の問題点を含めて報告する。